

第1章 香川大学学生生活実態調査について

(1) 調査の目的

香川大学学生生活実態調査は、香川大学の学生がどのような条件のもとで、どのような意識をもって学生生活を営んでいるのかといった学生生活の実態を把握し、大学の諸施策の基礎的資料として活用することを目的としています。この調査は1986年（昭和61年）の第1回以来これまでに8回実施されており、それぞれ報告書にまとめられています。

第1回調査	1986年（昭和61年）	第5回調査	1996年（平成8年）
第2回調査	1989年（平成元年）	第6回調査	1998年（平成10年）
第3回調査	1992年（平成4年）	第7回調査	2000年（平成12年）
第4回調査	1994年（平成6年）	第8回調査	2002年（平成14年）

この調査は、第1回から第3回まではおおむね3年ごとに実施してきましたが、社会人入学、外国人留学生の増加等多様化する学生、急速に変化する大学の教育環境を明確に把握するため、第4回からは2年毎に実施することにしました。

調査内容についても、経済状況などの基礎的な調査とその時々におけるトピックス的なテーマに関する調査を交互に実施することにしました。

今回（第9回）は、トピックス的な事項を調査する年度であるため、基礎的な項目は極力少なくして、大学における駐輪・駐車問題およびハラスメントに関する調査を行いました。又、平成15年10月に香川大学と香川医科大学が統合されたことにより、新しく医学部が加わった最初の調査となるものです。

(2) 調査実施期間

平成16年10月下旬～11月26日

(3) 調査の対象と方法

調査にあたっては、無作為抽出法を採用し、学生名簿から全学生の1/5を無作為にピックアップしました。（抽出率は1/5）

調査票の配布・回収に当たっては、各学部学務係（学生係）を通して行いました。学部別、入学年度別、性別から見た調査対象学生数、有効回収数、および回収率は表1に示すとおりです。

調査対象はこれまでの調査と同様、学部学生（夜間主コース学生を除く）に限定し、大学院学生は除いています。

表1 調査対象学生数と有効回収数、回収率及び抽出率

区 分		学生数(人)	対象学生数(人)	有効回収数	回収率	抽出率
学部別	教 育 学 部	934	191	123	64.4 %	13.2 %
	法 学 部	831	168	78	46.4 %	9.4 %
	経 済 学 部	1,522	306	179	58.5 %	11.8 %
	医 学 部	829	171	122	71.3 %	14.7 %
	工 学 部	1,191	240	149	62.1 %	12.5 %
	農 学 部	692	141	80	56.7 %	11.6 %
入学年度	平成 16 年度	1,294	264	151	57.2 %	11.7 %
	平成 15 年度	1,389	282	193	68.4 %	13.9 %
	平成 14 年度	1,416	287	184	64.1 %	13.0 %
	平成 13 年度	1,718	346	169	48.8 %	9.8 %
	平成 12 年度	82	17	15	88.2 %	18.3 %
	平成 11 年度以前	100	21	19	90.5 %	19.0 %
性別	男 子	3,457	702	383	54.6 %	11.1 %
	女 子	2,542	515	348	67.6 %	13.7 %
合 計		5,999	1,217	733	60.2 %	12.2 %

※1 抽出率は学生数に対する有効回収率を%で表したものです。

※2 法学部及び経済学部の夜間主コースの学生は除いています。

(4) 調査の内容及び項目

調査項目の設定に当たっては、今回はその時々におけるトピックス的なテーマに関する事項の調査年度となっており、大学における駐輪・駐車問題およびハラスメントに関する調査を行うこととしました。

なお、過去18年ほどの経緯もあり、設問項目によっては一部変更を加えたものもありますが、基本的には従来とそれ程変わらないものとなっています。

設定項目は、「Ⅰ. 基本的事項について」「Ⅱ. キャンパスライフについて」「Ⅲ. 個人生活について」「Ⅳ. その他」の4つに分類しています。その分類のもとで構成された質問内容および質問数は、以下のとおりです。合計すると88問となっています。

- Ⅰ. 基本的事項 : 属性 (3問)、通学方法 (3問)、家庭状況 (2問)、
経済状況 (7問)
- Ⅱ. キャンパスライフ : 入学動機 (4問)、学業 (10問)、課外活動 (8問)、
就職 (10問)、駐輪 (3問)、ハラスメント (6問)
- Ⅲ. 個人生活 : 住居 (8問)、健康 (8問)、友人 (4問)、
アルバイト (7問)、ボランティア活動 (4問)
- Ⅳ. その他 : 自由記述 (1問)

(5) 集計と報告書の作成

回収した調査票はエクセルで集計処理を行い、単純集計とクロス集計（学部別、学年別、性別）を行いました。

報告書の作成に当たっては、実態調査部会委員が分担執筆し、一目で理解できるように質問ごとに帯グラフによる図を掲載しました。

データを正確に残し、将来においても利用可能とするように、巻末には従来と同様に学部別の単純集計結果を載せました。（第3回報告書よりこのような形式を採用しています。）

報告書の本文は繁雑になるので実数は削除し、割合（パーセント）を中心に掲載しました。細部の数値については、巻末の資料を参照願います。

本文自体は分量も多くなるので、項目ごとに簡単な要約を付け加えています。